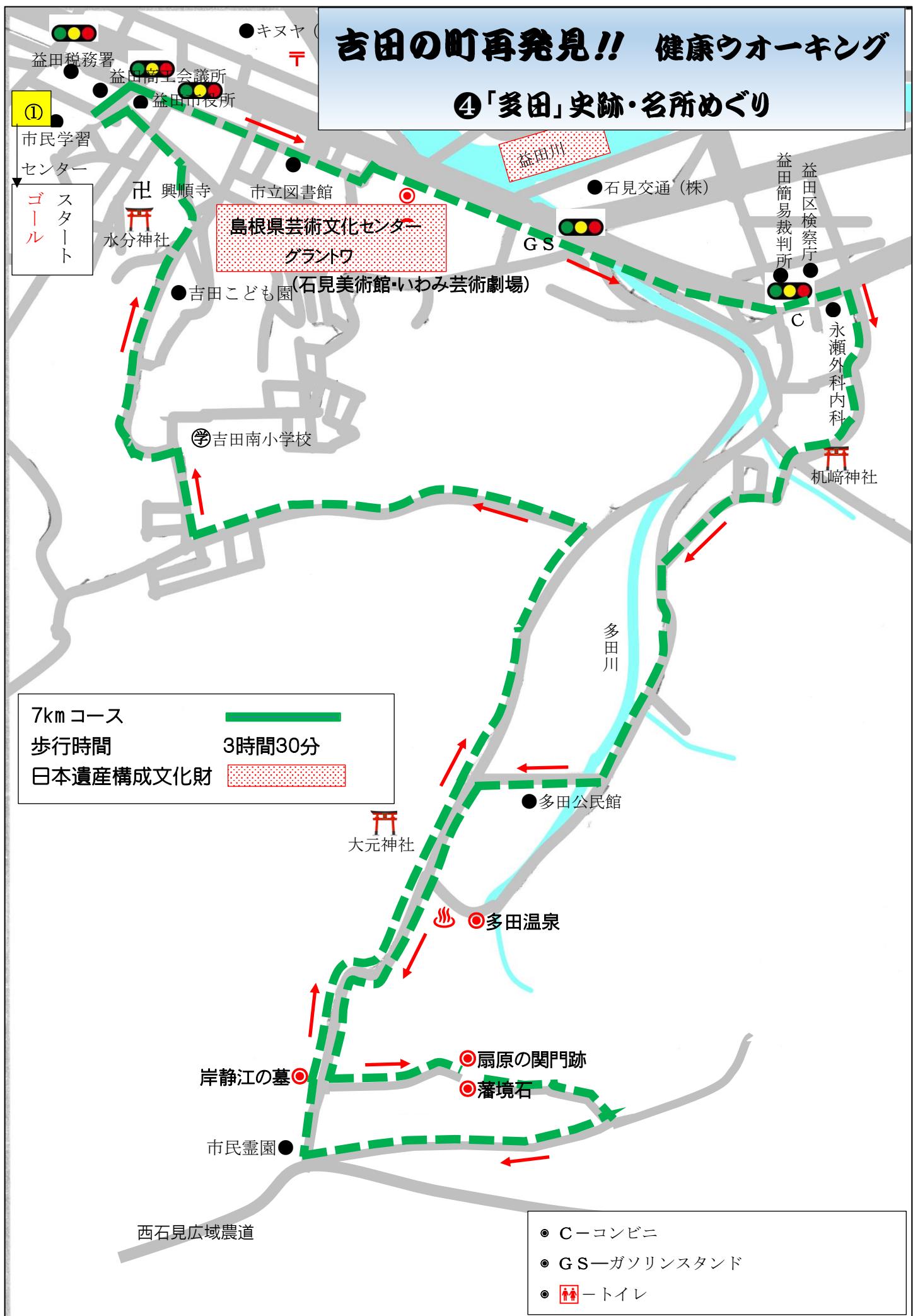


# 吉田の町再発見!! 健康ウォーキング

## ④「吉田」史跡・名所めぐり



# 「多田」史跡・名所めぐり

(スタート) 市民学習センター

## ① 島根県芸術文化センター グラントワ (石見美術館・いわみ芸術劇場)



歴史ある石見の地で、ひときわ美しい石州瓦の建物が、島根県芸術文化センター「グラントワ」である。「グラントワ」とはフランス語で「大きな屋根」を意味し、その愛称にふさわしく石州瓦が彩る大きな屋根の下、美術・音楽・演劇など幅広い芸術が集い、新しい文化が広がっていく。グラントワの建物は石州瓦 28 万枚を使用して建てられており、第 48 回 BCS 優秀賞や第 14 回しまね景観賞大賞等、多くの賞を受賞している

**本著色益田元祥像 (国指定重要文化財・県立石見美術館所蔵)**

## ② 多田温泉(白龍館)



大正 5 年に鉱泉の湧出が発見された山間に沸く温泉として古くから知られている 2013 年に浴場を全面改装されており、大浴槽の奥側に源泉浴槽があり、扉の外には薬湯の露天風呂がある。

## ③ 岸静江国治の墓 及び ④ 扇原閥門跡(市指定史跡:昭 46.6 指定)



### ③ 岸静江国治の墓



### ④ 扇原閥門跡

蛤御門の変 (1864) で長州軍は朝敵となり、幕府は慶応 2 年 (1866) 、第二次長州戦争の軍を起こし、四境 (石州口・芸州口・大島口・小倉口) より戦端を開いた。そのうち石州口の戦場となったのが益田市域である。幕府軍は浜田藩 400 名、福山藩 600 名の連合軍で、6 月 17 日の朝、益田に布陣した。

一方、大村益次郎率いる長州軍 1500 名は幕府軍の動きを読み、16 日には扇原閥門 (益田市多田町) に迫った。閥門を守るのは、扇原閥門守備隊長の浜田藩岸静江国治と少数の士卒、そして農民兵 16 名のみ。圧倒的多数の長州軍は、何度も開門を迫ったが、藩命を遵守した岸静江は断固拒絶し、石州口の戦いの火ぶたが切られた。槍の名人であった岸静江は甲冑で武装を固め長州軍の前に立ちはだかった。しかし近代兵器の前ではなすすべもなく、銃弾を浴びて立ち姿のまま絶命したという。感嘆した長州軍は一度横田へ帰陣し、埋葬と碑建立費用を拠出して梅月西禪寺住職に依頼した。岸静江は享年 31 歳。彼の脇差は益田市立歴史民俗資料館に保管されている。萬福寺本堂に当時の弾丸の跡が残っている。

(ゴール) 市民学習センター

※ 多田の椋の木(市指定天然記念物:昭 51.5 指定) 樹高 約 30 m